している。

17）先天性化骨不全症のパロチン使用例

石井誠一（東京厚生年金）

最近我々は比較的稀な症例と思われる先天性化骨不全症の女児例を経験したので報告した。患児は生後20日で，家族歴にて遺伝関係は認められなかつた。

尚本症に対して従来極めて多数の治療法が行なわれて来ているが何れも良好な成績を示すには到つていない。又近年はパロチン療法も試みられているので，本例に対し生後約1ヵ月より約3.5月間に亘り総計90 mg のパロチン投与を施行すると共に Vit. D の併用を行なつて臨床経過を観察した。

その結果，入院時に見られた骨折部は四肢骨及び肋骨の8ヵ所であつたが治療開始後4ヵ月間に新たに生じた骨折は2ヵ所に過ぎず，又生後1.5ヵ月で両側手根骨各1コの出現を見た。然し骨質の菲薄化は不変で又体重増加も不良であつた。現在の所本療法が効果ありとは断ぜられないが尚経過観察の予定である。

18）遺伝性骨疾患の4症例（その1）

°森　和夫，石井　博，内山忠夫
（国立千葉病院）
古作　龍，鈴木惟孝（千葉県）

1. 短指症，2. 大理石骨病

第1例。9才男児。生来盲であり，右手指の短縮が目立つた。身体計測により半身萎縮症を確め，X写真により右手及び足の中節骨の短縮と破壊像を見た。眼科的には右眼底の萎縮像，有髄視神経，左眼の角膜変性を認めた。患児の兄，19才にも同様の眼の変化と左足小指の短指症を認め，家族的に発現した短指症を伴う稀有なる先天性奇型と思われる。

第2例。7ヵ月女児。他の疾患にて来院。X（胸部）により骨の濃厚化を認め，全身の骨のX撮影により大理石骨病と診断した。検査により軽度の貧血あり，肝脾腫大があつた。家族を検査した所，母親にも大理石骨病を認めた。

19）遺伝性骨疾患の4症例（その2）

森　和夫，石井　博，°内山忠夫
（国立千葉病院）
坂口練平，竹内　肇（千葉県）

前演題に引続き遺伝性骨疾患の2症例を報告。

第3例は2才11ヵ月男児，主訴は歩行障害及び発育不全。入院時念珠環，二重関節，蹣跚歩行を認め，身長・体重は1才半，下肢長は1才に相当。X線で重症くる病の像を呈す。血清 Ca 正常，P低く Al・Pt. 高く，腎機能では尿細管再吸収障害，肝機能では排泄障害が疑われた。尿中の糖は4回中1回陽性。単純性 V・D 抵抗性くる病として治療しつつ精索中。

患児の兄（4才9ヵ月）について検査した所，X線でくる病の変化はないが，手根骨核2個であり，身長・体重は3才半，下肢長は3才に相当。血清 Ca・P 低く Al・Pt は高かつた。

第4例は2才2ヵ月男児，主訴は身体不均衡。初診時身長1年4ヵ月，下肢長1才以下に相当。頭囲は11才に相当す。検査成績に異常を認めず，X線にて胎児性軟骨異栄養症に特有の像を呈す。

20）ブドー球菌性敗血症並びに腹膜炎の各剖検例

森　和夫，°石井　博，内山忠夫
（国立千葉病院）
宍倉　俊，中島了介（千葉市）

症例1. 敗血症　8才の女児。昭和36年4月1日，髁骨部の疼痛，及び39℃の熱発により某医に関節リウマチの診断を受け，デカドロンの投与を受け，その後更に増悪，そこで当院に入院，当時全身状態悪く，両肺野に水泡音を聞き，右足関節を中心に腫脹，潮紅，膿疱形成，顔面等に小膿疱を認め，下肢には紅斑あり，白血球増加，左方移動あり，顔面の膿疱及び血液中よりブドー球菌を証明，胸部レ線写真で多数の嚢胞形成を認めた。入院後各種大量の抗生物質，其の他の治療を行なつたが死亡した。剖見では右足関節の急性化膿性関節炎，跟骨，距骨の骨膜炎，骨髄炎，化膿性心嚢炎，肺，腎，その他広汎な膿瘍形成を見た。

症例2. 化膿性腹膜炎　1ヵ月の女児，未熟児，数日前より食欲不振，便秘を訴え，昭和36年3月6日入院。既に全身状態悪く，脱水状態，強い鼓腸を認め，白血球増加，好中球増加，腹部レ線写真でガスの著明な瀦溜を認め，更に開腹により大量の濃汁と腸管癒着を見，膿汁よりブドー球菌を証明，CM，其の他の治療を行なつたが9日死亡す。剖見では化膿性腹膜炎，肺の一部に肺炎，膿瘍，その他諸臓器に小出血をみた。

特別講演

小児期に於ける反復性腹痛のレ線診断

千葉大講師　数馬欣一

昭和15年～36年の21年間当科入院の患者総数9231例中腹痛症例は1042例（11.3%）であり，昭和30年～34年の5年間外来患者総数17627例中腹